
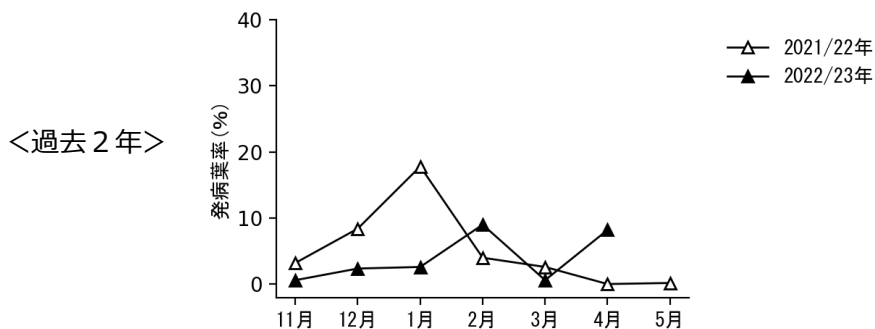
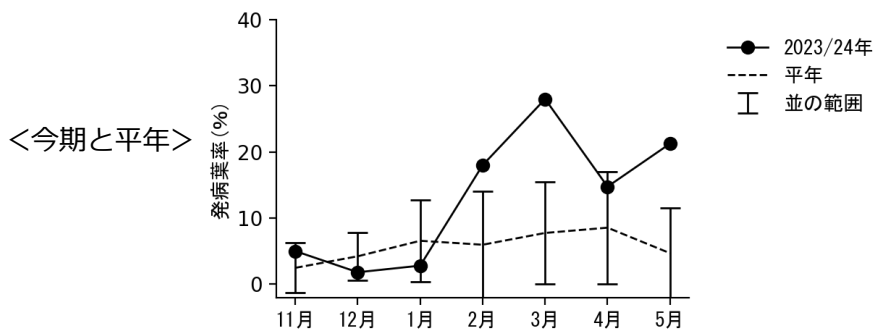


作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	うどんこ病			
調査結果	5月の発生量(平年比)	やや多		
予報	5月からの増減傾向	—		
	6月の発生量(平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果

発病葉率の推移



・発生施設率75.0% (平年：37.9%)

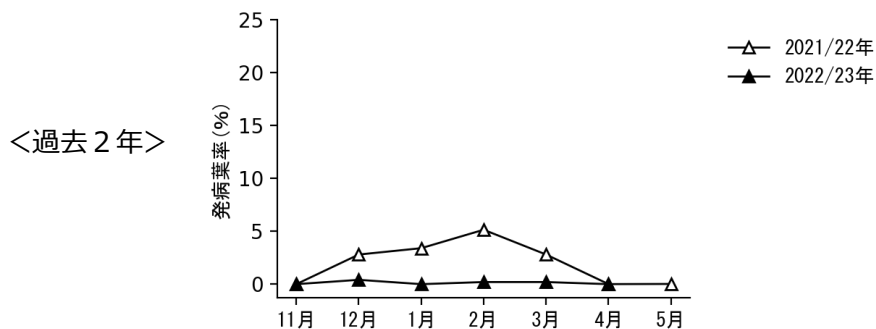
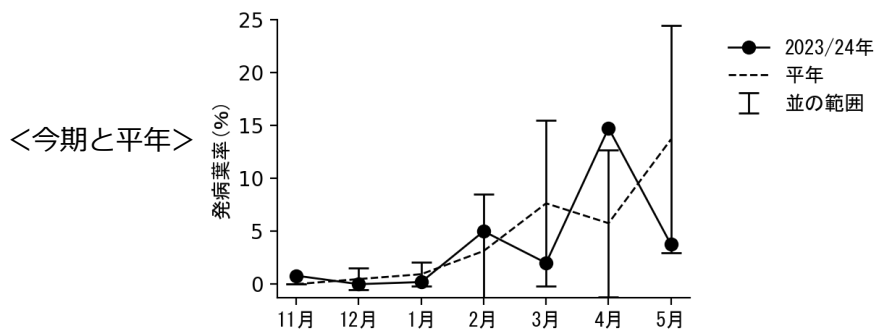
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	斑点病			
調査結果	5月の発生量(平年比)	並		
予報	5月からの増減傾向	—		
	6月の発生量(平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率50.0% (平年 : 62.1%)

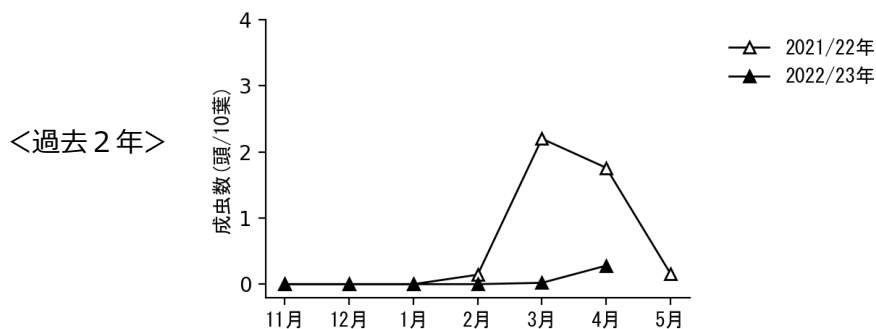
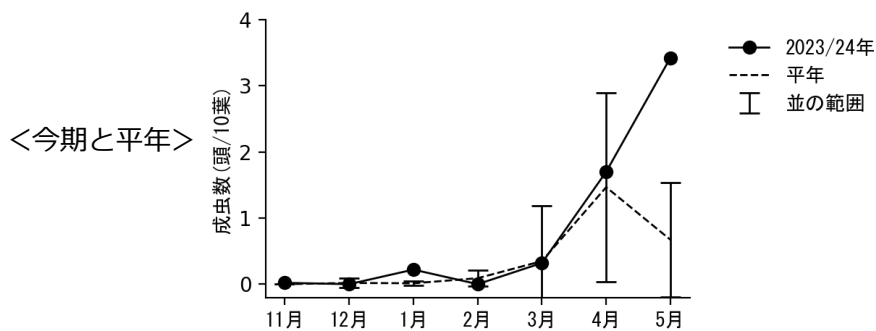
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので、施設外に持ち出し処分する。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	多		
予報	5 月からの増減傾向	—		
	6 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果


成虫数の推移



・発生施設率50.0% (平年 : 31.0%)

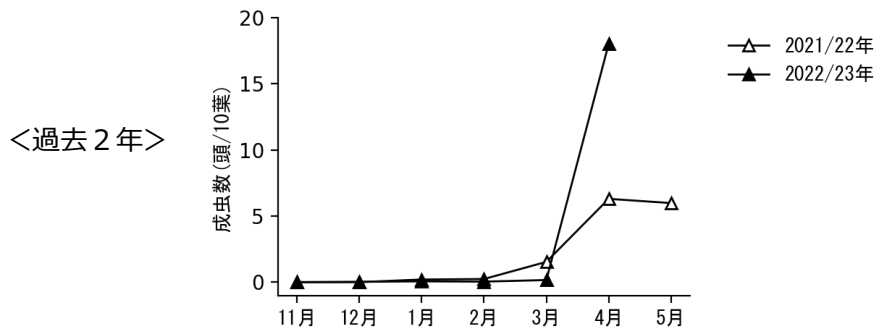
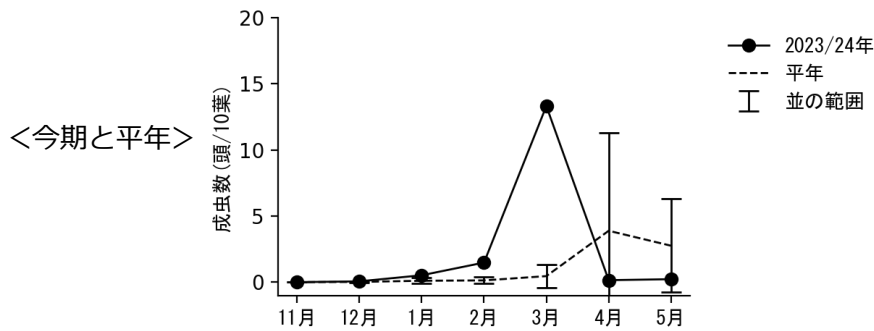
防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報	5 月からの増減傾向	—		
	6 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率50.0% (平年：34.5%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

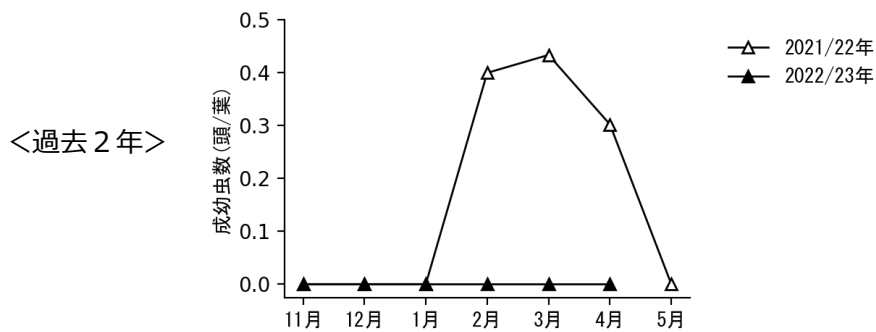
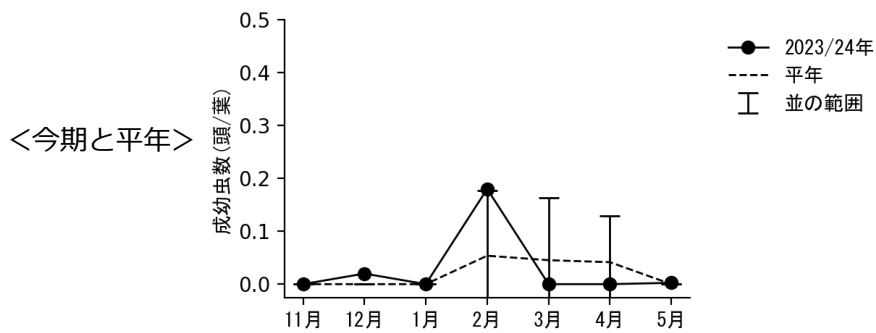


幼虫

作物	ニガウリ(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移



・発生施設率25.0% (平年：0%)

防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ綸点ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・早期発見に努め、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。